

舎生会活動を通して社会性を育む

～自分たちの生活をより豊かにするために～

大谷津 和之

本校寄宿舎は全国各地から高等部生以上の生徒が入舎し、集団生活を送っている。その中で、高等部生を中心に舎生会活動を行っている。舎生会は、会長・会計・書記・行事係（男女各1名）の計5名の役員で運営にあっている。活動内容は、主に舎行事の企画立案及び運営を行っている。さらに、寮長（男子寮、女子寮のまとめ役）も加わり、自分たちの生活をより豊かにするための話し合い活動に力を入れている。今回は、この話し合い活動の取り組みと舎生会の顧問からの働きかけを報告する。

キー・ワード：舎生会 話し合い活動 社会性

1 はじめに

本校寄宿舎生徒会（略称：舎生会）は、舎生の自治的な生活を充実させることによって、各人の自主性を育て、相互の親睦を深めることを目的に活動している。寄宿舎というひとつの集団の中での生活には日課等あり、通学生と違った過ごし方があるとともに、舎生会活動等を通して自主性や協調性が育まれる側面もあると考えている。

2 現在の舎生会体制組織

舎生会は5名の体制（会長・会計・書記・行事係男女各1名）で構成し、毎年1月の選挙で役員を決めている。任期は4月1日から3月31日までである。

寮長（男女各1名）は、オブザーバー的な役割を担う。任期は8月1日から7月31日までとし、毎年7月に選挙を行っている（Fig. 1）。

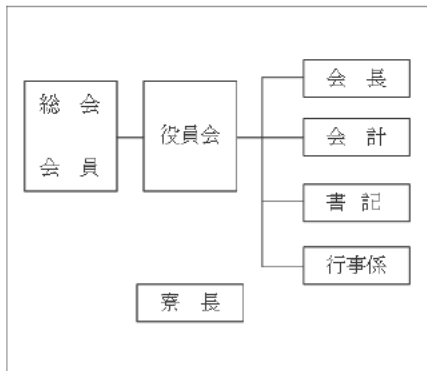


Fig. 1 舎生会組織図

3 現在の体制に至るまで

舎生会は昭和39年から始まり、今年で54年になる。平成11年度から舎生会組織の大幅な見直しを図り、平成25年度からは現在の体制に至っている。

(1) 平成11年度以前

舎生が50名以上で本科生が多く、舎生会の役員も全体の3分の1であった。役員は17名で運営し、任期は9月1日から8月31日までだった（Fig. 2）。また、当時小学部生も在舎していたが、小学部生と専攻科生は準会員の扱いであった。

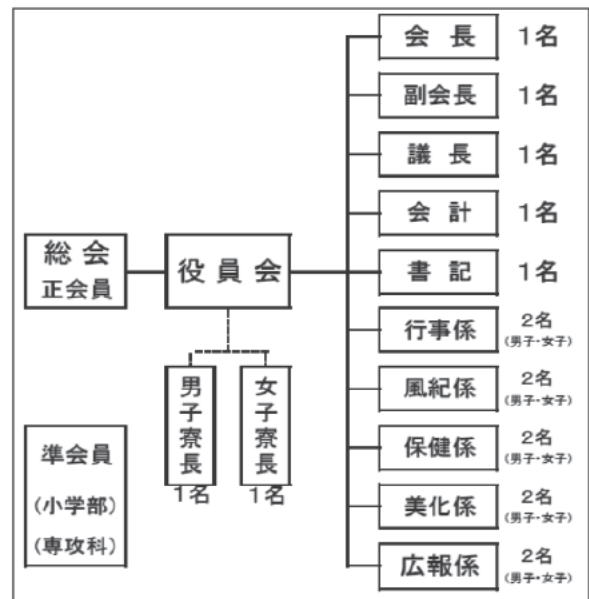


Fig. 2 平成10年度 舎生会組織図

(2) 平成12年度

舎生の減少に伴い、舎生全体の2分の1が役員になること、また受験勉強等で舎生会活動の負担が重いという実態を踏まえて見直しを図った。また、当時は専攻科生の割合が全体の3割程度に増えていた。小学部生も含む舎生全員を正会員とし、役員の仕事内容及び人数を変更した (Fig. 3)。そして、専攻科生からリーダーと保健係をたてることで、役員会とのパイプ役とした。

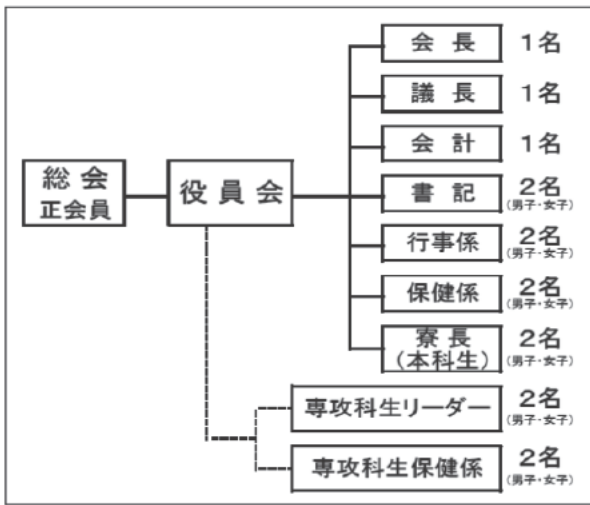


Fig. 3 平成12年度 舎生会組織図

(3) 平成13年度

新たに行事係1名と保健係2名(男女各1名)に専攻科生を入れた体制とした (Fig. 4)。また、任期を4月1日から3月31日に変更した。

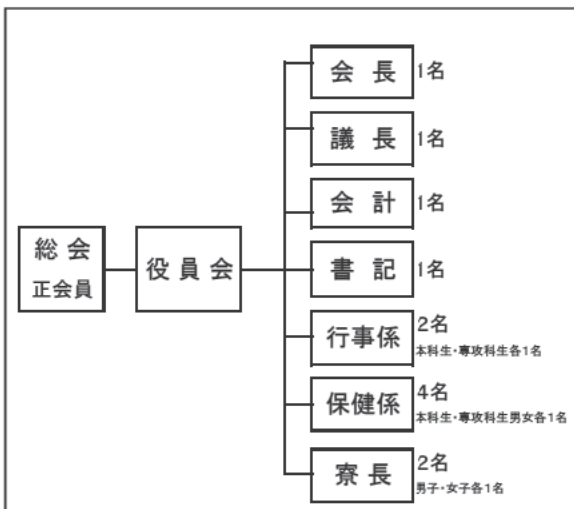


Fig. 4 平成13年度 舎生会組織図

(4) 平成25年度

以前は中学部から在籍した舎生が多く、行事等を経験しながら先輩の活動する姿を見て自然と後輩へと舎生会活動が引き継がれてきた。しかし、ここ数年では中学部から在籍する舎生が減少したことや高等部3年生は進路実現に専念するため、役員構成は高等部2年生に集中している状況にある。そこで、舎生全員が舎生会活動に参加できるように改正を図った (Fig. 1)。

4 活動内容

(1) 年間活動

年間を通しての活動内容は以下の通りである (Table 1)。

Table 1 年間活動内容

4月	新入舎生歓迎会 新入舎生歓迎レクリエーション 舎生会総会 (舎生会会費予算案報告)
6月	寮祭
9月	文化祭展示準備
10月	舎生会総会 (舎生会会費中間報告)
11月	文化祭展示
12月	クリスマス会
1月	ともしび文集製本
3月	舎生会総会 (舎生会会費決算報告) ともしび文集発行 送別会
*ともしび新聞は各学期に2回発行	
*定例役員会は毎月末(8月除く)に実施する	

(2) 行事の運営

平成25年度より役員会の体制をスリム化したことで、全ての行事を役員のみで行うには負担が大きくなった。そこで、役員以外の舎生にも関わってもらうことにした。これによって、役員以外の舎生も行事の準備を通して、達成感や充実感を味わえるとともに仲間たちとの連帯感もより一層深めて欲しいと考えた。

① 新入舎生歓迎会・新入舎生歓迎レクリエーション・送別会

その年度に退舎する予定以外の舎生で3つの行事を担当する。それぞれの行事のリーダーは役員が務め、進行する。

② 寮祭

寄宿舎の最も大きな行事で、毎年6月に行われている。平成30年度で41回目を迎えた。寮祭では、男子班と女子班に分かれてテーマ及び物語に沿った劇を披露している。

寮祭に向けて、全体、受付、会場、装飾、デザート、パンフレットの6つの係を舎生全員で分担し、5月中旬から約1ヶ月間準備を進めている (Fig. 5)。新入舎生にとって、入舎してまもなくの行事ということもあり、負担が大きいかもしれないが、係活動を通して先輩舎生と関わることでお互いを知る良い機会になるのではないかと考える。実際に、寮祭の準備を通して舎生同士の絆や団結力がより高まり、寮祭後の寄宿舎生活や行事等では、舎生一人ひとりが意欲的、自主的に取り組んでいる様子が見られる。



Fig. 5 寮祭の準備の様子

③ クリスマス会

①～②の行事と異なり、役員以外の舎生を6名募集し、役員とともに作り上げていく行事である。次年度の舎生会役員を考えている舎生や舎生会活動に興味のある舎生にとっては、活動に参加することで舎生会活動の中身をより知ることができる良い機会に繋がっている。

(3) 役員会

週に1回食堂にて行っている。主に、行事に向けての話し合いや学期に2回発行しているとしび新聞の内容等を取り上げて1時間程度話し合っている。役員会が円滑に進められるように、役員会が始まる前にあらかじめ会長と顧問で内容の確認を行っている。また、話し合いの際、お互い積極的に意見が出せるようにホワイトボードを活用したり全員の顔が見えるように席を工夫している。

(4) 定例役員会

毎月最終週の役員会は、男子寮長及び女子寮長も加わって定例役員会としている。活動内容の報告や1ヶ月を振り返っての反省と生活をより豊かにするための話し合いを二本柱として進めている。ここでは、後者の生活をより豊かにするための話し合い活動について報告する。

5 話し合い活動

(1) ねらい

- ①他の人の意見をじっくり聞き、自分の意見を思う存分述べる。
- ②舎生会の代表であることの自覚を再認識し、周りに目を向ける姿勢を身につける。
- ③役員以外の舎生や指導員とのネットワークを広げる。

(2) 話し合いの流れ

- ①1ヶ月を振り返って良かった点や問題点を洗い出し、整理、共有する。
- ②改善策を話し合う。
- ③全体周知が必要な場合は、舎生全員が集まる点呼の時間を使って報告する。

(3) 顧問の役割

①話し合いに同席し、進行状況や内容に応じてフォローに入ったり、職員や第三者の立場として意見を述べたりしながら、話し合いが円滑に進むよう支援する。

②顧問は3名置いているが、交代勤務のため情報共有としてノートを活用する。また、他の指導員にも話し合いの内容や様子について共通理解を図るために、週に1回行われる寄宿舎の部会を通して報告する。

③話し合いの内容によっては、他の舎務分掌の係の指導員を交えて相談したり連携を図ったりしながら舎生へのバックアップを行う。

6 話し合いの活動の実践例

話し合い活動を通して、これまでに実践した取り組みの中から11例を挙げて報告する。

(1) 調理員への挨拶

① 背景

寄宿舎として、挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、生活していく上で欠かせないものと考え、前々から挨拶の必要性や仕方について認識させるために様々な場面において指導を行っている。

② 議題（役員からの意見）

日頃から舎生間で挨拶する様子は見られるが、外部に委託している食堂の調理員に対して感謝の気持ちや日頃の挨拶を行う舎生が少ない。

③ 手だて（役員からの意見）

自主的に挨拶を心掛けるようにホワイトボードに板書して呼びかける (Fig. 6)。また、日頃から意識するために板書したものをパウチ加工して食堂に掲示する。

④ 指導員の働きかけ

調理員の中にマスクを着用したまま挨拶を返したりマスクがなくても舎生と目を合わせずに下を向いたまま挨拶を返したりする様子が見られたため、舎生に伝わらないことが多かった。そのため、指導員から調理員に聴覚障害の特性を説明した。

⑤ 成果

調理員の名前を覚えたり会話を交わしたりと積極的に挨拶する様子が見られるようになり、調理員と舎生の距離感が近くなったように感じる。

聴覚障害の特性を調理員に説明したことで、障害

理解に繋がり、例えばお代わりがある時や食材の説明を皆が見て分かるように紙に記入して掲示する様子が見られた。

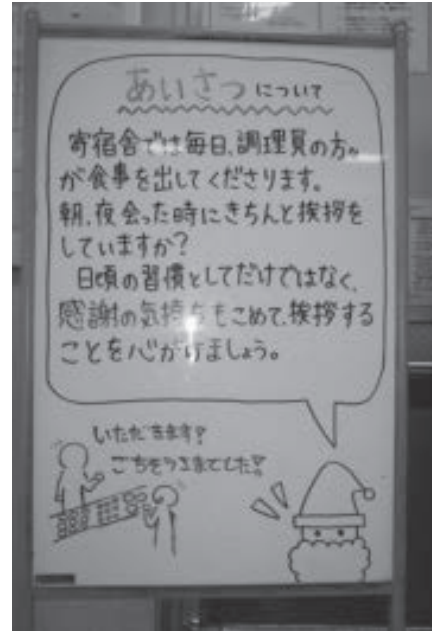


Fig. 6 挨拶について

(2) 雑紙の回収箱

① 背景

平成29年度より自治体のごみの分別方法が変更になった。その中で、燃えるゴミとして扱われていた雑紙が燃えるゴミとは別に出す方法になった。

② 議題（役員からの意見）

雑紙を捨てる機会が多いと思うので、皆が捨てやすくするために紙類の回収箱を設置したらどうか。

③ 手だて（役員からの意見）

回収箱を作って、男子寮及び女子寮に設置する (Fig. 7)。そして、週に1回、掃除当番が回収箱内の雑紙を紐で束ねてゴミステーションまで運ぶ。

④ 指導員の働きかけ

雑紙の溜まり具合や掃除の様子を確認するとともに必要に応じて掃除当番の舎生に声かけを行った。

⑤ 成果

回収箱が満杯になっても放置されており、指導員からの声かけが続き、改善策が定着しない様子が見られた。そのため、改善後の振り返りも含めて話し合うように促した。

そして、再度話し合った結果、雑紙の溜まり具合から月に1回に変えるかつ掃除当番が捨てる日だと分かるようにマグネットを作成した(Fig. 8)。また、一目で分かるように「雑紙を捨て隊」というネーミングをつけた。



Fig. 7 雑紙の回収箱



Fig. 8 「雑紙を捨て隊」マグネット

(3) 掃除用具の管理方法

① 背景

各掃除場所に必要分の雑巾を置いている。また、学期毎に輪番で行う美化係(きれいにし隊)の舎生が、ゴミ袋やトイレトーパー、掃除用洗剤等衛生用品及び掃除用具の在庫点検を月に1回行っている。

② 議題(役員からの意見)

各掃除場所に雑巾が置いているが、数が足りなくなる時がある。

③ 手だて(役員からの意見)

雑巾の数を確認する作業をきれいにし隊の仕事として追加できるか、掃除用具の管理を行っている舎務分掌の「環境整備・美化」系の指導員と相談する。

④ 指導員の働きかけ

今まで掃除機の紙パックやスポンジの交換の作業を指導員が行ってきたが、きれいにし隊の仕事として入れたらどうか、役員に提案した。また、作業を増やすことによってきれいにし隊の負担が大きくなるか、当時のきれいにし隊の舎生と協力して試しに行ってみた。

⑤ 成果

相談した結果、在庫点検表の中に雑巾の数を確認する作業を追加した。

掃除機の紙パックやスポンジ交換の作業については、きれいにし隊の舎生がその作業を含めた在庫点検を行った結果、「大変ではなかった」と反対の意見が出なかった為、在庫点検表に加えることにした。そのことから、自分たちの手で掃除用具の管理をより行えるようになった。

(4) 使用済み歯ブラシの回収

① 背景

掃除で使用する為に、指導員が使用済みの歯ブラシを集めている。

② 議題(役員からの意見)

例えば洗濯機の洗剤入れを掃除する時、歯ブラシが非常に役立つので、自分たちも使用済みの歯ブラシを集めたらどうか。

③ 手だて(役員からの意見)

使用済みの歯ブラシの回収箱を作成して、男子寮及び女子寮の多目的室に設置する(Fig. 9)。そして、帰省日の前日に使用済みの歯ブラシの回収の協力を呼びかける(Fig. 10)。

④ 指導員の働きかけ

帰省日が迫ってきたら、会長と呼びかけの確認を行った。

⑤ 成果

帰省日の前日に役員が呼びかけたことで、使用済

みの歯ブラシを捨てずに掃除にまわす等意識付けができてきた。



Fig. 9 歯ブラシの回収箱

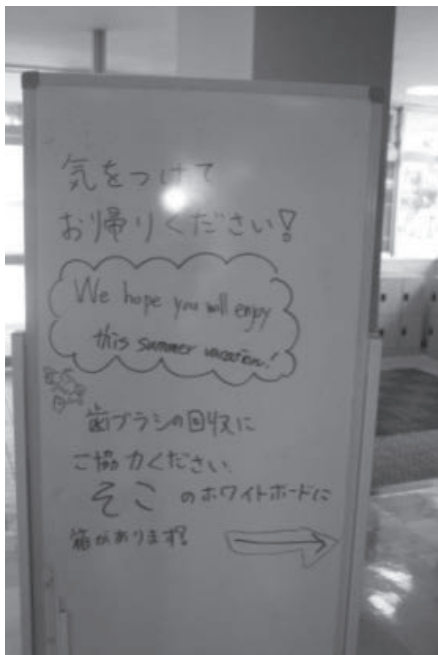


Fig. 10 歯ブラシ回収の呼びかけ

(5) 電池の回収箱

① 背景

共用棟のラウンジに電池用の回収箱を設置している。

② 議題（役員からの意見）

補聴器や人工内耳の電池を捨てる機会が多いので、男子寮及び女子寮にも電池の回収箱を設置したらどうか。

③ 手だて（役員からの意見）

回収箱を作成して、男子寮及び女子寮の多目的室に設置する (Fig. 11)。そして、毎学期末の大掃除の時に、掃除当番がラウンジにある回収箱に捨てる。

④ 指導員の働きかけ

掃除の手順に回収済みの電池を捨てる作業を追加する。また、大掃除の様子を確認するとともに、必要に応じて声かけを行う。

⑤ 成果

大掃除の様子から、定着されている様子が見られる。

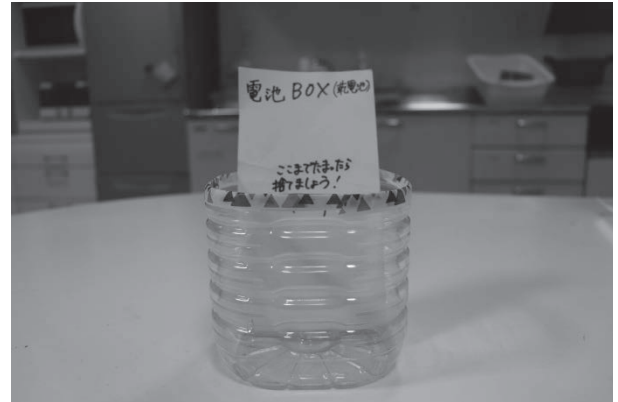


Fig. 11 電池の回収箱

(6) 食堂掃除の方法

① 背景

食堂掃除は、舎生全員を6グループに分けて、輪番で週に3回（火・木・土曜日）に行っている。

② 議題（役員からの意見）

グループによって食堂掃除の方法がまちまちなので、統一した方が良いのではないかと。

③ 手だて（役員からの意見）

食堂掃除の方法を改めて確認及び決定し、全体に説明する。また、掃除方法を紙に記入して、食堂内に掲示する (Fig. 12)。

④ 指導員の働きかけ

指導員も食堂掃除に参加して、役員が提示した掃除方法に沿って行えているか確認を行った。

⑤ 成果

説明してからしばらくの間は全グループが同じ掃除方法で取り組んでいたが、時間が経つと掃除方法が変わってしまう様子が見られるので、その都度指導員が声かけを行っている。

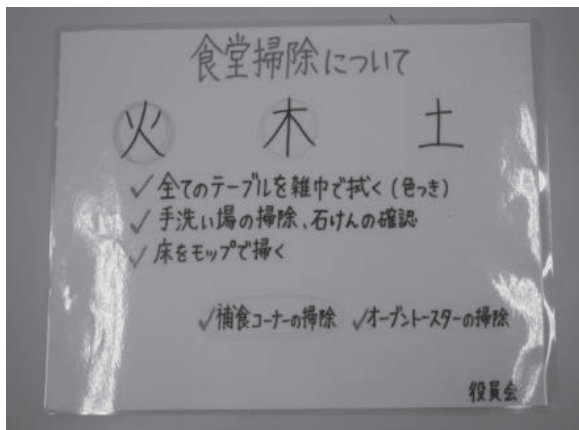


Fig. 12 食堂掃除の方法

(7) 台布巾と雑巾の区別

① 背景

台布巾と雑巾の区別が分かるように、台布巾の場合は「上」、雑巾の場合は「床」とマジックで大きく記入している。

② 議題（役員からの意見）

台布巾や雑巾を使っていく内にマジックが消えてしまい、区別がつかなくなってしまう。

③ 手だて（役員からの意見）

タグを付ける、色を分ける等様々な方法があるが、舎務分掌の「会計」係と相談する必要があるため、顧問に委ねることにした。

④ 指導員の働きかけ

舎務分掌の「会計」係及び「環境整備・美化」系の指導員と顧問で相談を進めた結果、色で区別できるように色付きの物を購入した。

⑤ 成果

色付きの物を購入したことを役員に伝え、役員が点呼の時に雑巾と台布巾の区別について説明したことで、混乱することなく使い分けている様子が見られた。

(8) 目安箱の設置

① 背景

月に1回、役員及び寮長が集まり、生活をより豊かにするための話し合いを行っている。

② 議題（役員からの意見）

生活上困ったことや改善してほしいことについて役員以外の舎生からの意見や要望を集める機会があっても良いのではないかと。

③ 手だて（役員からの意見）

試行期間を設けて目安箱を設置する。また、匿名で投函しやすくするために、予め一人ひとりに用紙を配布して、意見や要望がある人は紙に記入して目安箱に投函してもらう。

④ 指導員の働きかけ

目安箱を設置しないことになった場合でも、役員以外の舎生からの意見を集める機会を設けるように促した。

⑤ 成果

意見は多数集まったが、ほとんどの意見が寄宿舍生活と関係のない内容だったため、設置しないことにした。その代わりに、学期に1回行われている男子寮・女子寮会議や定期総会でそれぞれ意見を聞く時間を設けて、話し合う方向に決定した。

(9) ゴミステーション

① 背景

翌日が登校日の場合は、夜の点呼後日常掃除を行っている。その時にゴミ箱が溜まっていたら、当番がゴミステーションまで持って行く。

② 議題（役員からの意見）

時々、燃えるゴミの回収箱の中にプラスチック用のゴミ袋が入っている等、きちんと分別されていない。それぞれの回収箱には、分別区分を記入した紙が掲示されているが、外が暗い時は見づらいので間違えてしまうのではないかと。

③ 手だて（役員からの意見）

「燃えるゴミ」、「プラゴミ」を紙に記入して、パウチ加工したものを各回収箱の持ち手付近に掲示する。

④ 指導員の働きかけ

暗い時でも区別ができるようなデザインにするように促した。

⑤ 成果

外が暗くてもゴミステーションから少し離れた状態から一目で分かるようなデザインに仕上がったことで、分別ができていっているようになった。

(10) 食事時の服装

① 背景

食事のマナーの一環として、食事時は相手が不愉快になると思われるジャージと寝間着は禁止というルールを設けていた。

② 議題（役員からの意見）

近年はジャージをファッションアイテムの一つとして使っている人が多く見られるため、ルールの見直しが必要ではないか。

③ 手だて（役員からの意見）

室内用のジャージは認めるが、学校指定の体操着、部活用のジャージ、寝間着は禁止というルールに変更する。また、見本の掲示物を作成して、食堂内に掲示するとともに全体に説明する (Fig. 13)。

④ 指導員の働きかけ

食事の時、禁止とされている服装を着ている舎生が見られた時は声かけを行った。

⑤ 成果

食事時の服装について役員も声をかけていく等、ルールが浸透してきている。

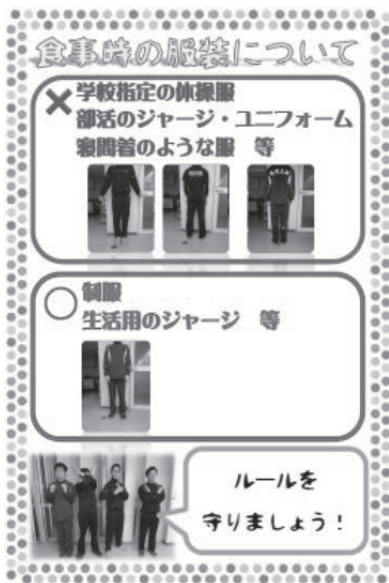


Fig. 13 食事時の服装について

(11) 点呼時のマナー

① 背景

毎日 19 時にラウンジで点呼を行っている。最初は男女別で点呼をとり、その後、全体で舎監の紹介及び諸連絡を行っている。

② 議題（役員からの意見）

舎監からの話や諸連絡の時に、人の話を聞かずに喋りをする舎生がいる。

③ 手だて（役員からの意見）

会長や寮長から点呼時のマナーについて話す。また、舎生会用のホワイトボードに話題になったこととして板書して、意識付けに繋げる (Fig. 14)。

④ 指導員の働きかけ

点呼の様子を見ながら、必要に応じて声かけを行った。

⑤ 成果

以前と比べて喋りをする舎生は減ってきたように感じるが、未だ喋りをする舎生がいる。その都度指導員が注意しているが、今後も話を聞くときの態度やマナーについて繰り返し話をしていく必要があると考える。

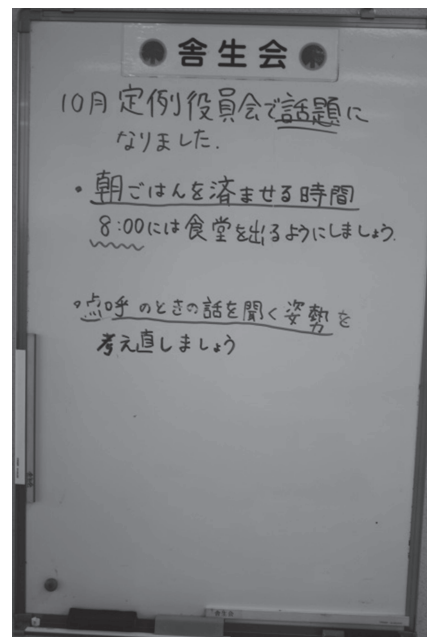


Fig. 14 点呼のマナーについて

7 この積み重ねを通して

(1) 成果

① 役員の様子

話し合いを重ねていくことで、役員一人ひとりが舎生会を担っているという自覚を持ち、周りに目を向けられるようになった。また、定例役員会でも時間が足りなくなるほど意見交換及び情報交換が活発に行われ、自分たちの生活は自分たちの手でより良くしていこうという意識が高まってきているのが伺える。また、役員以外の舎生から、生活上困ったことについて相談を受けるようになり、そのことを話し合いに持ち出して皆で相談する場面が増えてきた。

② 役員以外の舎生の様子

夜の点呼で、役員以外の舎生が「多目的室のテーブルが汚いので、掃除の時に拭いた方がいいと思います。」「水切りかごの中が一杯なので、片付けて下さい。」等生活上気づいたことを自ら伝える様子が見られるようになった。また、「明日、高1が林間学校から帰ってくるので、高1のために洗濯の予約を入れないようにしましょう」等、相手のことを考えて呼びかける様子も見られるようになった (Fig. 15)。

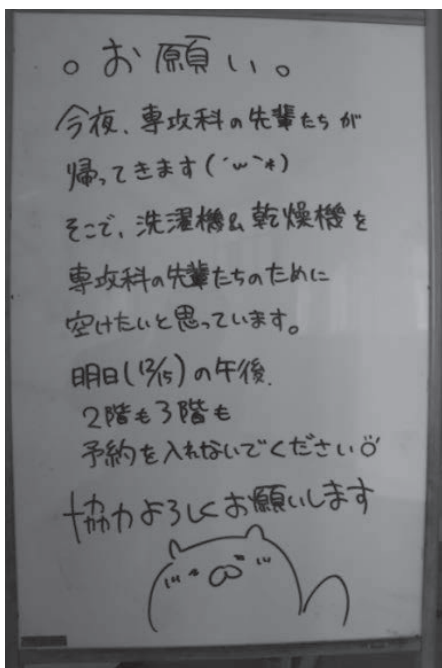


Fig. 15 洗濯の予約について

③ 指導員の働きかけ

今までは、話し合い活動を通して他の舎生に伝達が必要なことがあった時のみ役員が点呼で報告していたが、話し合いの中でどのような議題が挙げたのか、そういった情報を他の舎生とも共有できると役員会での活動がより見えるのではないかと役員に促した。その結果、「点呼時のマナー」のようにラウンジにあるホワイトボードに話し合いの中で挙げた議題を記入したことで、情報を共有できるようになった。

また、指導員にとっても「調理員への挨拶」や「食事時の服装」のように、話し合い活動を通して舎生の困っていることや考えを知ることができたのが一番大きい。そして、指導及び支援方法を見直す機会にも繋がり、話し合いの内容に応じて、他の舎務分掌の係と連携を図っていくことで、舎生が過ごしやすい生活環境の質の向上についてよりよく考えるようになった。

④ 話し合い活動の発信

保護者や学校職員等にも舎生会活動を知ってもらうために、学期に二回発行している「ともしび新聞」に話し合い活動を通して改善できたことを記事にしたらどうか促した。そして、2018年度9月号のともしび新聞に、歯ブラシ回収の協力のお礼の記事を掲載した (Fig. 16)。このように、周りに発信することで、自分たちで行ってきたことが評価され、役員活動の幅が広がり、より充実していくのではないかと期待している。

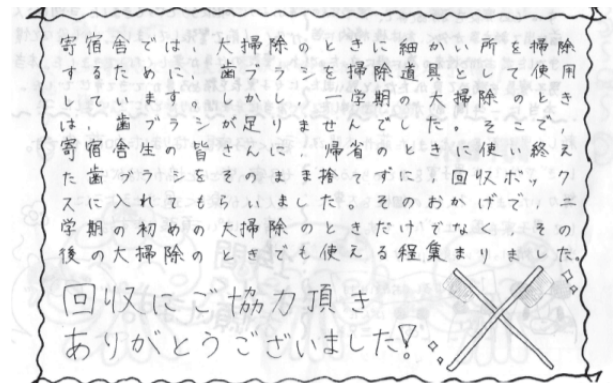


Fig. 16 歯ブラシ回収の協力のお礼

(2) 課題

① 振り返りも含めた話し合い

「雑紙の回収箱」や「食堂の掃除方法」のように改善策を実践した後、時間の経過とともに曖昧になっていくことも少なくない。話し合いの中で、改善策を実践した後の変化が見られなかった場合は、次の段階として別の改善策を検討できるような展開までもっていけるように働きかけていかなければならない (Fig. 17)。

また、今まで行ってきた取り組みを今後も継続していくためには、どのようにしたら良いかも検討する必要がある。

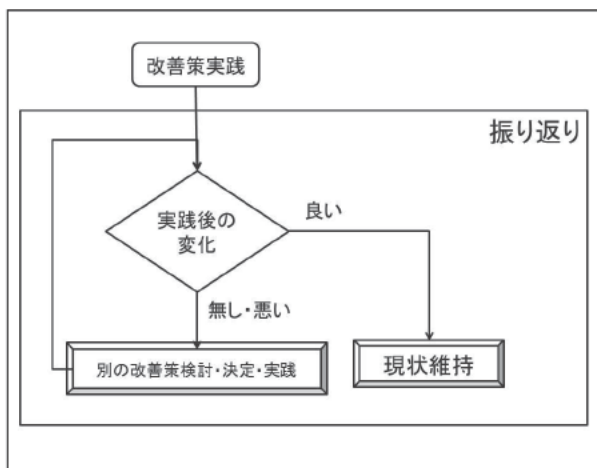


Fig. 17 振り返りも含めた話し合い

② 話し合い活動の工夫

話し合いを重ねていくうちに、改善策に対して中には反発する舎生もいた。そのことが役員への負担にならないように配慮する必要がある。また、話し合いで決定したことを一方的に押しつけるのではなく、役員以外の舎生からの意見にも耳を傾ける等、お互いに歩み寄りながら同じ目的を持って寄宿舎生活を営んでいけるように働きかけていかななくてはならない。

話し合いの中でも、様々な意見が出て決定することが困難な様子が見られた場合は、その場で結論を出さずに一旦保留する。そして、顧問が次回の話し合いまでに役員一人ひとりの考えや気持ちを聞く。一方で、次回の話し合いに向けて、具体策を顧問間

で相談したり他の舎務分掌の係と連携を図ったりしながら進めるようにしている。役員一人ひとりが話し合い活動に対して、意欲がより高められるようにどういう働きかけをしていったら良いか考えていかななくてはならない。

8 最後に

行事をこなすだけの舎生会だけではなく、日々の生活にも目を向けようと話し合い活動を取り入れたことで、寄宿舎全体として良い方向に作用できていると感じる。話し合い活動を通して、一つのことでもしっかりとできた充実感を高めること。すなわち自分たちで、考え、気づき、積極的に行動することが、卒業後の生活に向けて社会性を高めていくことに繋がると考えている。

今後も、話し合いの時に出了た議題に対して、舎生の実態や背景、提案の理由を指導員がしっかり汲み取る。そして、役員たちの力で解決できるのか、決定したことが実現できるのかを、舎生の視点に立って指導員間で相談し、連携を図っていくことを指導員一人ひとりが常に念頭におく必要がある。また、「調理員への挨拶」や「使用済み歯ブラシの回収」のように寄宿舎での指導や取り組みが活かされることもあるので、今後もどんな小さいことであっても舎生の生活の様子に引き続き注意し、働きかけを検討していきたい。

〔参考文献〕

寄宿舎 (2011) 舎生会活動について—舎生会活動を通して舎生の自主性を育む—筑波大学附属聴覚特別支援学校紀要, 第 33 巻 (通巻 38 巻), 65-75.